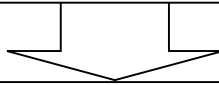


第5学年社会科学学習指導案

1. 小単元名 「わたしたちの暮らしをささえる情報 ～私たちをささえる情報ネットワーク～」

こんな子どもたちに

- 災害時において、情報ネットワークが働くことに興味をもつようにし、それらについて意欲的に追究しようとする
ことができる。 (関心・意欲・態度)
- 福岡市をはじめとする諸機関が、情報ネットワークを活用して公共サービスの向上に努めていることから、情報ネットワークが国民生活の維持と向上に役立っていることを考えることができる。 (思考・判断)
- 福岡市をはじめとする諸機関の情報ネットワークの働きを調べ、考えの根拠を明確にしながら表現することができる。 (技能・表現)



こんな単元のとらえ方で

《**子どもの実態**》事前アンケート結果から、子どもたちは、インターネットや携帯電話の情報を見たり、聞いたりする術は得ている。家庭でインターネットやメールを活用していたり、携帯電話の所有率が高かったりすることからも見て取れる。3分の2の家庭において、インターネットや携帯電話から、天気予報・地図・おいしい店など様々な情報を得ている。子どもたち自身も、音楽や芸能情報などを取得している。しかし、それらの情報がどのようにして自分のところへ届けられているのか、情報を得ることはどのような役に立っているのか、また、情報をどのように活用していけばいいのかについて、十分に理解するまでには至っていない。

《**教材の価値**》本小単元では、わたしたちの身の回りに情報が溢れているということと、多くの情報がわたしたちの生活と大きく関わっていることを理解することをねらいとしている。

そこで、福岡県西方沖地震を取り上げる。福岡県西方沖地震は約5年前で、当時のことを保護者はもちろんのこと、約3分の2の子どもたちが今でも覚えている。そして、福岡県西方沖地震は、県民に情報を伝えるために、気象庁が中心となり、各放送局、通信会社と連携した事例の一つである。この時の情報の流れや連絡方法などから、災害時の情報ネットワークに目を向けることができる。そこから、情報ネットワークが、わたしたちの生活に大きく関わっていることに気付き、重要性について考えることができる意義深い教材である。そして、情報化の進展により、国民生活が支えられていることをとらえ、多くの情報を得る際には、有効に活用すること、つまり様々な情報から必要で、かつ信用できるものを取捨選択することの大切さを身に付けるようにしたい。

こんな活動で

《**であう過程**》

福岡県西方沖地震が起きたとき、なぜ、情報が伝えることができるのかと疑問をもたせ、学習問題につなぐために、当時の映像を提示する。次に、地震発生の時どんな情報がほしいのか考えさせ、「何が起きたのか知りたい。」「どこに逃げればいいのか知りたい。」など思いを表出させる。さらに、当時流れた情報を提示することで、「なぜこんなに大きな地震なのに、わたしのもとに情報を伝えることができたのかな。」という疑問につなぎ、学習問題をつくり、予想を考えさせる。

《**さぐる過程**》

災害時における情報ネットワークをとらえるために、予想の交流から行政・通信・報道に視点を分けて、調べさせていく。調べ学習の時には思考を整理させるために、ノートを活用し、「その資料が適切かどうか。」「その資料は学習問題とどうつながっているのか。」と助言したり、同質のグループで考えを広めさせたり、深めさせたりして調べた視点から学習問題の答えを考えさせる。

《**ふりかえる過程**》

学習問題の答えを出すために、気象庁を中心として、各機関がつながり合っていることが分かるように各視点から学習問題の答えを交流する。さらに、緊急地震速報が流れている映像を提示し、西方沖地震後、さらに情報ネットワークの働きが向上したことに目を向けることができるようにする。

2. 指導計画（全9時間）

過程	主な学習活動と内容	配時	自ら学びを進める子ども像	支援
であ う	<p>1. 福岡県西方沖地震をもとに、学習問題をつくる。</p> <p>(1) 福岡県西方沖地震について、当時の様子を思い出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実体験 ・保護者の話 ・当時の資料 <p>(2) 地震発生の映像の資料などから、疑問をもち、学習問題をつくる。</p>	2	<p>○西方沖地震の時の自分や家族の様子を思い出し、発表することができる。</p>	<p>○被災場所の写真や保護者への当時の様子のアンケートの資料を提示する。</p>
	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>学習問題</p> <p>なぜ、短い時間で、わたしたちに情報を送ることができたのだろう。</p> </div> <p>2. 自分の予想を立て、その予想がより明確になるように、調べる課題を決め、学習計画を立てる。</p> <p>(1) 資料をもとに、根拠のある予想を立て、交流する。</p>	① 本時 ○組	<p>○学習問題につながるような疑問をもつことができる。</p>	<p>○学習問題につながるように、資料の提示の仕方を工夫し、驚きや疑問をもたせるようにする。</p>
	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>行政</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気象庁が中心で情報を流しているから。 ・市役所が連絡係となっているから。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>通信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害伝言ダイヤルを使っているから。 ・携帯電話会社が発信しているから。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>報道</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各支局と連絡を取っているから。 ・新聞社が独自に情報を得ているから。 </div> </div>	2	<p>○資料をもとに、学習問題の答えについて、予想を立てることができる。</p>	<p>○予想をもつために、根拠となるような資料を提示する。</p>
<p>(2) 自分の予想から、課題（調べていくこと）を明確にして、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べる方法 ・資料、本、インターネット、インタビューなど 	①	<p>○調べていく課題をもつことができる。</p>	<p>○課題を明確にすることができるように、視点ごとに交流を行い、課題づくりの助けとする。</p>	
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>行政</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市役所の役割 ・国からの連絡 ・ライフラインとのつながり ・地域（美野島）の防災組織 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>通信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害伝言ダイヤル起動方法 ・災害掲示板開設の状況 ・171 ・ネットの利用 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>報道</p> <ul style="list-style-type: none"> ・号外配布の仕組み ・速報の速さ ・支局の役割 ・他社とのつながり </div> </div>				

<p>さ ぐ る</p> <p>ふ り か え る</p>	<p>3. 様々な関係諸機関からの情報、インタビューなどを使って調べ、まとめる。</p> <p>(1) 自分の課題に沿って調べ、表現物にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色々な機関の資料・インタビューの内容の資料 <p>(2) 3つの視点に分かれて、学習問題の根拠となりうるのか話し合う。</p> <p>4. わたしたちが、災害時に短時間で情報を手に入れることができるのはなぜなのか、学習問題の答えをまとめる。</p> <p>(1) それぞれ調べたことを発表し、交流する。</p> <p>(2) わたしたちが、災害時に情報を手に入れることができるのはなぜなのか、学習問題の答えをまとめる。</p>	<p>4</p> <p>③</p> <p>①</p> <p>1 本 時</p> <p>○ 組</p>	<p>○課題を調べ、まとめることができる。</p> <p>○友だちの発表と自分の考えを比べて、友だちの考えを取り入れることができる。</p> <p>○調べたことを発表し、学習問題の答えを導き出している。</p> <p>○学習問題の答えと自分の考えをまとめて書き表すことができる。</p> <p>○自分たちの生活は情報ネットワークによって支えられていることを考えることができる。</p>	<p>○地震の時の情報の流れが分かる資料やアドレスなど準備しておく。</p> <p>○学習問題に振り返らせることで、考えがずれないようにさせる。</p> <p>○調べたことを視覚的に分かりやすく板書し、情報ネットワークの働きが理解でき、学習問題の答えにつながるようにする。</p> <p>○わたしたちの生活に大きく関わっていることをつかむことができるように、情報化の進展が分かる資料を提示する。</p>
---	--	--	--	---

行政
気象庁が中心となって、様々な機関に連絡をとっており、国だけでなく福岡県や福岡市が、対策本部を設置して、いつでも情報を伝えられる体制をとっているから。

通信
過去の教訓を生かして、災害伝言ダイヤルや災害掲示板を開設したことにより、より多くの人が情報を発信したり、受け取ったりすることができるようになったから。

報道
新聞社、放送局共に、いつも以上の速さで情報を伝え、支局から情報を得るだけでなく、他社同士でも情報を交換しながらよりよい情報を伝えているから。

学習問題の答え
気象庁からの情報をもとに、いつでも行政や通信会社や放送局が、情報を伝える情報ネットワークをつくっているから、わたしたちに知らせることができます。おかげでわたしたちは安心してくらすことができます。

4. 本時目標

- 福岡県西方沖地震についての資料をもとに、地震の発生を即時に伝える取り組みについての学習問題をつくり、予想をもつことができる。(思考・判断)

5. 本時指導の考え方

目指す子ども像

わたしは、地震が起きたらその情報がテレビやインターネットなどですぐに伝わる仕組みがあるから、わたしたちに情報を送ることができたと思います。なぜなら、地震が起きたことが分かる機械があるということを知ったことがあるからです。その機械から情報が送られるようになっていると思います。どのような仕組みがあるのか、これから詳しく調べていきたいです。

本時仮説

地震が発生したときに情報を送ることができたことについて、「なぜ」「どうして」という思いをもつように、

- ① 不安な気持ちの高まりに気付かせる映像資料の提示
- ② 情報の伝わる早さについて疑問をもたせるための発問・資料提示
- ③ 自分の思いを表出させるための時間の保証

を行えば、学習問題をつくり、予想をもつことができるであろう。

手立て1 不安な気持ちの高まりに気付かせる映像資料の提示

(1) 防災センターでの地震体験の映像

震度6弱という地震の強さを想起させるために、防災センターでの地震体験の映像を提示する。映像資料を提示することで、その時の状況や体験中の表情等から、いかに落ち着いた状態でいられないかを想起させやすくする。

(2) 地震発生時の状況が分かる映像資料の提示

普段では考えられない状況を目の当たりにして不安な気持ちが高まることを、驚きをもって気付かせるために、地震が発生した時の映像資料を提示する。この資料からは、保育園の卒園式の最中に地震が発生した瞬間、子どもたちを守ろうとする人々の様子や、不安な園児たちの表情が読み取れる。映像資料を提示することで、不安な気持ちが高まる人々の思いに効果的に気付かせることができると考える。







手立て2 情報の伝わる早さについて疑問をもたせるための発問・資料提示

情報を流すことには正確さが必要であり、そのために情報を発信する人々の努力があるという前単元での学習を想起させるために、「地震の情報は一体誰が流したのかな。」と問う発問を行う。そうすると学習経験より、「放送局の人々」という考えが出てくるだろう。そこで、地震発生時の放送局の映像を提示する。このことで、「放送局も情報を流せる状況ではないのに、なぜ地震の情報がすぐに流れているのだろう。」という疑問を持たせる。発問と映像資料より、情報の伝わる早さに注目させ、学習問題へとつなぎたい。

手立て3 自分の思いを表出させるための時間の保証

自分なりの予想をもつことで追究していこうという意欲を持たせるために、「今日の学習で」を書き、発表する時間を保証する。さらに、「どのようにテレビ局などに伝わっているのか、調べる見通しをもてたね。」と、子どもの考えを価値付けることで、「〇〇について調べていこう。」という意欲の高まりを図る。このことは、自分の予想がもてない子のヒントにもなり得ると考える。

6. 本時展開

学習の活動と内容	支援
<p>1. 前時学習を振り返り、本時のめあてを知る。</p> <p>めあて 福岡県西方沖地震の資料から情報の伝わり方について話し合い、学習問題をつくろう。</p> <p>2. 資料や交流をもとに自分の思いを出し合い、学習問題をつくる。</p> <p>(1) 西方沖地震のような状況になったら、どのように思い、何の情報してほしいのか話し合う。</p> <div data-bbox="118 600 778 869">  <ul style="list-style-type: none"> ・ どのくらいの大きさの地震なのか。 ・ 家族や友達は無事なのか。 ・ また大きな揺れがくることはないのか。 ・ 自分の家はどうなっているのか。 </div> <p>(2) 資料から驚きをもったことや疑問をもったことを発表する。</p> <div data-bbox="118 958 778 1249"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10時57分に津波注意報が発表されている。 ・ 10時59分に地震情報が出ている。 ・ 市や町のしん度がたくさんわかっているからほっとする。  </div> <div data-bbox="118 1294 778 1473">  <ul style="list-style-type: none"> ・ なんでこんなに早く伝えることができるの。 ・ なんで短い時間でいろいろなどの情報が伝わるの。 </div> <p>学習問題 なぜ、短い時間で、私たちに情報を送ることができるのだろう。</p>	<p>支援</p> <p>○資料提示：防災センターでの地震体験の映像 地震の強さを想起させるために、実際に体験した防災センターでの地震体験の映像を提示する。</p> <p>○資料提示：地震発生時の状況がわかる映像 地震が発生した際に世の中がどのような状況になるのかをとらえさせるために、福岡県西方沖地震が発生した際の映像を提示する。</p> <p>○交流活動：地震発生時の思いを交流する場 不安な状況の中での情報の必要性に気付かせるために、「何の情報ほしいのか」というテーマで交流活動の場を設定する。</p> <p>○資料提示：地震の情報が読み取れる資料 不安な状況の中、必要な情報を知ることで得られる安心感に気付かせるために、当時出された津波注意報、気象庁発表の地震情報を提示する。</p> <div data-bbox="778 1093 1444 1182">  <p>これを見たり聞いたりして、どう思ったかな。</p> </div> <p>○発問：情報が伝わる時間について疑問を持たせる発問</p> <div data-bbox="778 1249 1444 1361">  <p>地震の情報は一体誰が流しているのかな。</p> </div> <p>○資料提示：地震発生時の放送局の映像 情報を正確に伝えるためには放送局の人々の努力があることを想起させるとともに、その放送局でも地震の影響を受けていたことをとらえさせるために、地震発生時の放送局の映像を提示する。</p> <p>○時間保障：自分の思いを表出させるための時間 本時学習をふりかえり、追究していこうという意欲を高めるために、「今日の学習で」を書く時間を保証するとともに、予想について価値付けていく。</p> <div data-bbox="778 1899 1444 2067">  <p>〇〇さんは聞いた話から機械に注目したんだね。どのようにテレビ局などに伝わっているのか、調べる見通しをもてたね。</p> </div>
<p>3. 「今日の学習で」を書き、発表する。</p> <div data-bbox="118 1720 778 2056"> <p>わたしは、地震が起きたらその情報がテレビやインターネットなどですぐに伝わる仕組みがあるから、わたしたちに情報を送ることができたと思います。なぜなら、地震が起きたことが分かる機械があるということを知ったことがあるからです。その機械から情報が送られるようになっていると思います。どのような仕組みがあるのか、これから詳しく調べていきたいです。</p> </div>	

4. 本時目標

- 情報ネットワークの働きで、わたしたちは安全・安心に過ごすことができることを理解することができる。 (知識・理解)

5. 本時指導の考え方

目指す子ども像

気象庁からの情報をもとに、いつでも行政や通信会社や放送局が、情報を伝える情報ネットワークをつくっているのを、わたしたちに知らせることができます。おかげでわたしたちは安心して過ごすことができます。

本時仮説

自分たちの生活が情報ネットワークに支えられていること理解させるために、
①情報ネットワークがつくられていることに気付かせるための発問と交流活動の場の設定
②情報ネットワークが発展していることを理解させることができる資料提示
③自分の生活と情報ネットワークとの関係についての考えを表出させる場の設定
を行えば、学習問題の答えを生かし、自分たちの生活が情報ネットワークによって支えられていることに気付くだろう。

手立て1 どの取り組みが大切なのか全体で考える交流活動の場の設定

大きな地震であったにもかかわらず、情報がわたしたちのもとに届くためには、各機関が協力し合って、情報を伝え、ネットワークをつくっていることを理解させるために、各視点からの発表の後、「大きな地震にもかかわらず、情報を届けるためには、どの働きが大切ですか。」と発問し、全体での交流活動につなぐ。

全体で情報の流れについて、表現物や板書を活用して話し合う。子どもたちは、各視点からこだわった部分を交流する中で、共通点を見つけたり、違う点について話し合ったりする。さらに、全体のつながりに気付いている子どもを意図的に指名することで、ネットワークがつくられていることに気付かせることができると思う。







手立て2 情報ネットワークが発展していることを理解させることができる資料提示

情報ネットワークが発展していることを理解させるために、緊急地震速報が流れている画像を提示する。この資料からは、番組が流れている最中に、緊急地震速報が流れ、地震が起きる前に情報が流れていることが分かる。つまり、災害からわたしたちの命を守るために、西方沖地震の時と比べて、情報ネットワークが発展していることを理解することができると思う。

手立て3 自分の生活と情報ネットワークとの関係について考えを表出させる場の設定

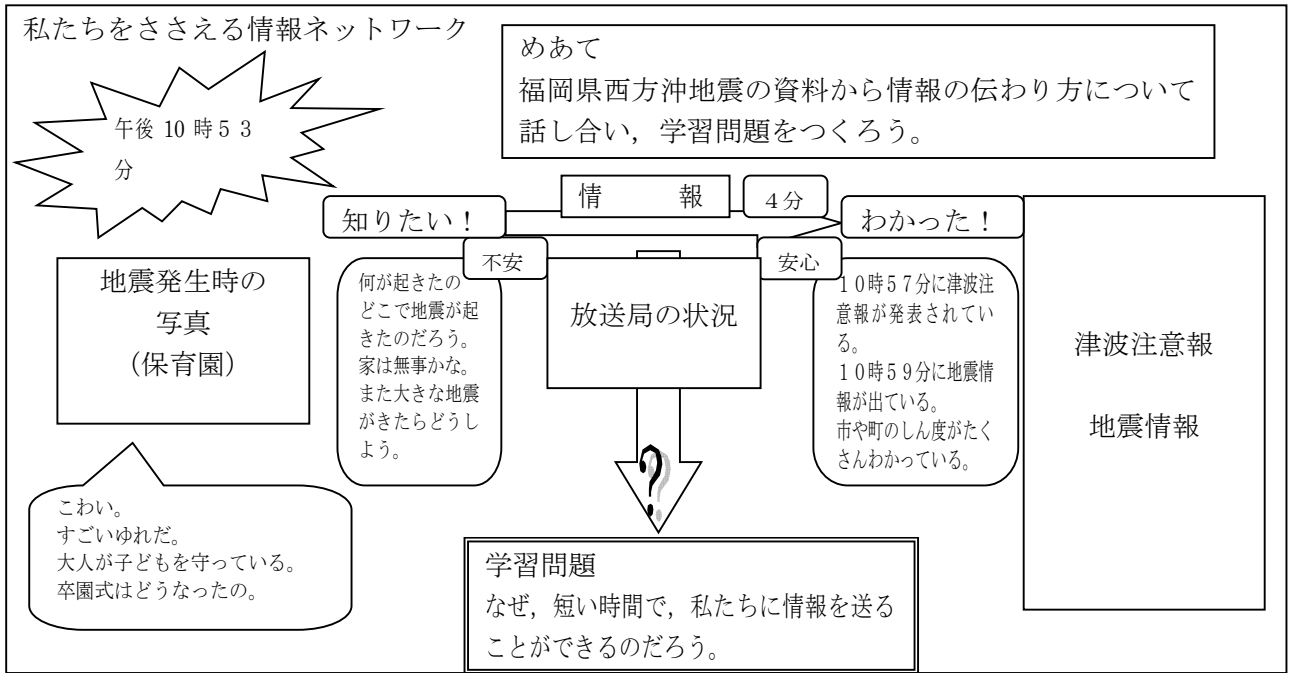
情報ネットワークがあることで、自分たちの生活がいかに守られているのか考えを表出させるために、板書をもとに、今日の学習を振り返る。さらに、「なぜ、わたしたちに情報を送ることができたのか。」「情報ネットワークがあると、どんないいことがあるのか。」の2点を書く視点として与える。子どもたちは、「今何が起きているか分かったら安心するから。」「どこに避難すればいいか分かったら安心するから。」と自分と情報ネットワークの関係について、よりいっそう考えることになる。さらに、「今日の学習で」を発表させ、情報ネットワークがわたしたちの生活を支えていることをおさえる。

6. 本時展開

学習の活動と内容	5年-6	支援
<p>1. 前時を振り返り、本時のめあてを知る。</p> <p>めあて なぜ、短い時間で、わたしたちに情報を送ることができたか話し合い、わたしたちの生活と情報ネットワークについて考えよう。</p> <p>2. 学習問題の答えについて、全体で交流する。 (1) 視点ごとに、学習問題についての考えを発表する。</p> <p> ・行政の働き ・通信の働き ・報道の働き など</p> <p>(2) 全体で交流し、学習問題の答えを考える。</p> <p> 気象庁が素早く知らせることが大切だと思う。</p> <p> 情報が伝わるような仕組みが大切だと思うよ。</p> <p>3. 緊急地震速報が流れている画像から、情報ネットワークが発展していることをつかむ。</p> <p> ・お知らせする音を聞いたよ。 ・地震が来る前に分かるなんてすごい!</p> <p>4. 「今日の学習で」を書き、発表する。</p> <p> ・今何が起きているか分かると安心するから。 ・どこに避難すればいいか分かると安心するから。</p> <p>気象庁からの情報をもとに、いつでも行政や通信会社や放送局が、情報を伝える情報ネットワークをつくっているのだから、わたしたちに知らせることができます。おかげでわたしたちは安心してくらすことができます。</p>		<p>○調べたことや調べてできた考えを事前に把握し、補助簿を作成しておく。</p> <p>○自分の考えを付加・修正させるために、事前に考えを把握し、意図的に指名する。</p> <p>○つながりが見えるかどうか考えながら、発表を聞き、矢印を板書しながら確認していく。</p> <p>○交流活動・発問：どの取り組みが大切なのか全体で交流活動を行う。 ネットワークをつくっていることを理解させるために、下記の発問を行い、交流活動を展開する。</p> <p> 大きな地震にもかかわらず、情報を届けるためには、どの働きが大切ですか。</p> <p>○発表の際、表現物を投影したり、板書の図の矢印の様子を押さえたりしながら、情報が伝わる様子を考えさせる。</p> <p>○資料提示：情報ネットワークの働きの大切さを実感させる資料を提示する。 緊急地震速報が流れている画像を提示し、地震が起きる前に情報が流れていることが分かるようにする。</p> <p>○学習を振り返る場の設定：自分の生活と情報ネットワークとの関係について考えを表出させる。 「なぜ、わたしたちに情報を送ることができたのか。」「情報ネットワークがあると、どんないいことがあるのか。」の2点を書く視点として与える。</p>

7. 板書計画

(2/9)



(9/9)

